

学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月30日(土) 午後2時00分～3時02分

会 場：町営二郷第一住宅集会所

出席者：住 民 11人(男6人、女5人)

教育委員会 委員長 後 藤 眞 琴

委員 留 守 広 行

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

皆さん、こんにちは。学校再編についての住民説明会というご案内をしております。ご参加をいただきありがとうございました。案内の方は住民説明会となっておりますが、決まったことの説明ではなくて、今現在教育委員会として考えている案を御説明いたしまして皆さんの意見を聴く会というふうに捉えていただきたいと思います。ただいまから開会してまいります。開会に当たりまして、美里町教育委員会後藤委員長から挨拶を申し上げます。

《委員長(後藤)》

皆さん、こんにちは。今日はお忙しい中、また、梅雨が明けてこのような暑さの中お集まりくださいましてありがとうございます。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきましては以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐(早坂)》

説明に先立ちまして、本日出席している教育委員及び教育委員会の職員を紹介させていた

だきまして誰が説明しているかわからないとにならないようにしたいと思いますのでよろしくをお願いします。委員長からお願いします。

(出席者5人が自己紹介をする。)

《課長補佐(早坂)》

それでは、学校再編についての説明をさせていただきます。説明の方は教育次長の須田から説明をいたします。

《教育次長(須田)》

それでは、皆さん改めましてこんにちは。私の方から説明をさせていただきます。まずは資料ですが机の上に置かせていただきました3部になります。次第が1枚と、その下に何枚かを左上で綴じた説明会のお知らせというのがあります。それからもう一枚は、説明会の説明資料として、先週の一か所目の会場でご指摘を受けまして、児童の推移もあつた方がいいだろうというご意見をいただきまして、急きょ追加した資料でございます。この3部ありますでしょうか。それでは説明につきましては、何枚か綴じています学校再編についての住民説明会と書いてあるこちらの資料を使って説明をさせていただきます。1枚目のチラシといひますか、こちらは広報みさとの7月1日号に掲載をしております。周知用のチラシにつきまは2つの目的があります。1点目は、先週土曜日から実施しております町内8か所の住民説明会を皆様にお知らせするというこです。この下段、下の表にそれぞれの会場と開催の日程日時を記載しております。町内の計8か所で住民皆さんとの意見交換会を行うことをお知らせすることが1つ目の目的です。今日、午後からここ佐野地区で7か所目、夜に練牛地区で開催して8か所目となります。それから2つ目のねらいは、現在の教育委員会の基本的な考え方、将来の美里町の学校の姿、それをまとめました学校再編ビジョンというのがあるのですがそちらの方の骨子の部分を2行、3行で書いております。中学校の再編については、現在の3つの中学校を1校に再編すると、目標ではございますが平成33年の4月開校を目標にめざしていきたい、というのが1つです。それから小学校については、こちらの方につきましても将来的には1校にしたという考えであります。その経過措置としまして中学校区ごとにまず1校に再編し、その後3校を1校にするというのが教育委員会の考えであります。このような内容をこのチラシ、あるいは広報の記事を通して町民の皆様にお伝えしたいということです。この資料一式については事前に各会場に置かせていただき配布しております、また、そのほかに幼稚園、小学校、中学校の園児、児童、生徒の皆さんに、お子さんに家庭に持ち帰っていただく形で各世帯に配布をしております。ある会場でご指摘ありましたが、保育所のお子どもたちにも持ち帰らせればよいのではないかというご意見をいただきました。この次からは保育所のお子さんの各家庭にも配らせていただき、より広く周知をしていきたいと思ひます。これ1枚をめぐっていただきまして、2枚目については教育委員会から住民の皆様へということで、先ほど教育委員長が述べましたものを文面で簡単に書いたものであります。内容の説明は省略させていただきます。めぐっていただき、3枚目以降、ここからページをふっています。1ページから6ページまで、学校再編につい

での説明会の資料であります。本日この資料について簡潔にご説明させていただきます。別途お配りしました次第と重複する部分もありますが開会の挨拶の後に説明ということですが、6つのポイント、6つの説明内容に分けて資料も作成しております。この6つのポイントをこれからお伝えしたいと思います。1つ目は、中学校の再編をなぜ行うのか、2つ目はどのように再編するのか。①と②につきましては中学校の再編について記載しております。次に③と④は小学校の再編について同じように、なぜ小学校の再編が必要なのかと、そしてどのように再編するのかということを書いてあります。5点目はそれぞれの再編に伴います事業費、費用のお話をしたいと思います。そして最後の6点目は今後の取組についてお話をさせていただきたいと思います。それでは1枚目をめくっていただきまして、2ページの①、なぜ中学校の再編を行うのかということで再編の理由について教育委員会の考え方を書いてあります。さまざまな再編に向けての要因、理由等がありますが、その中から主な理由として2つ、まず生徒の減少が進んでいるということです。それからもう1つは学校施設の老朽化が進んでいるということです。率直にストレートに申し上げますと、資料の一番後ろに、各学校の建築した年度とから、あるいは建築してから何年経っているかという資料もつけております。その下に中学校の3校について掲載しておりますが、小牛田中学校ではもうすでに51年、不動堂中学校で46年が経過しています。この2校についてはかなり古くなっています。今、現在は修繕をしながら生徒の安全を保ってきておりますが、今後ですね、これがいつまで使用できるのか、今このまま何もせずに修繕だけを繰り返してやっていけるのかという問題があります。この2校が古くなってきているので、なんとか両校を大規模改修して直すのか、あるいは新しく立て直すのか、何かの手立てをここ5年、あるいは10年、この期間中に何かをしなければならないと思っています。このまま放っておくことはできないということです。それと子供たちの数が減ってきますので、それぞれの学校、小牛田中学校、不動堂中学校を建替えすれば一番よろしいのですが、町の財政にもかなりの制限があります。その2校を新築、あるいは大規模改修をしてきちんと直した場合に、生徒の今後の推移を見たときに、費用対効果という言い方は教育に対して失礼な言い方かもしれませんが、2校をこのまま今後学校として維持できるのか、新しく2つの学校を建てて良いのだろうかという疑問があります。生徒の減少と学校の施設が古くなっているという2つの要因から、今教育委員会としては今後の中学校の将来の姿をしっかりと定めて、考えて、決めて、それに向けた整備を進めなければいけないというのが、今回の学校の再編整備に動いた最初のスタートであります。それと併せて、小学校もそれぞれ古くなってきています。新しい学校もありますが古くなってきています。小学校も併せて一緒に考えていこうというのが、今回の中学校と小学校について教育委員会がいろいろと検討してきた内容であります。次の3ページの中学校をどのように再編するのか、これは先ほどもお話ししたように不動堂中学校、小牛田中学校、南郷中学校の3つの中学校を、仮称として美里中学校としていますがこの1校にしてはどうかという考えです。3校を1校に再編することを早期に取り組み生徒の学習環境を整備していくべきというのが教育委員会の現在の考えであります。時期

は33年4月開校を一つの目標としたいという考えです。次に4ページ、5ページ③、④の小学校の方に入らせていただきます。小学校の方につきましても先ほどお話ししましたが、中学校の再編を考える場合、小学校の将来的なビジョンをしっかりと持った上で中学校を再編するべきであろうと。昨日の会場でも小中一貫校とかいろいろな考え方の意見が出されました。そういった中学校の再編だけでは終わらない部分もありますので、小学校の再編も含めて考えていくということです。ここには複数クラス、学級替えをしたいと考えを書いてありますが、これについては昨日の会場でもいろいろな意見を出していただきました。本日も皆様の御意見をお聴きできればと思います。それから④はどのように再編をするのか、こちらの方についても昨日の会場でいろいろな意見を出していただきました。先ほどお話ししましたように中学校区単位で1つずつに再編をして、その後に1つに再編をしたい考えです。時期ですが、これについては皆様にお配りしました平成33年までの児童数の推移を書いてございます。しかし、この段階では大きな減少はないのですが、その後の推移を見ながら決めて行っても良いのではないかと考えています。比較をすれば小学校の方は中学校よりは時期的に遅れても良いのではないかと考えています。これから32年度まで5年間くらいかけて検討を重ねていって、そして取組については33年度以降の取組となる考えであります。これについても皆様から忌憚のない御意見をお聞かせください。次に6ページであります。費用はいくらかかるのかというところです。これから学校再編を進める場合には、その再編する内容によっても変わってきますし、再編の方法、今ある学校を大規模改修して活用していくのか、あるいは新しく学校を建てるのか、新しく用地を求めて学校を建てるのか、今の学校敷地に建てるのか、いろいろな方法によって事業費が変わってくると思います。これについて、教育委員会としましては、まだ積算といえますか、ちゃんとした調査は行っておりません。今後、専門の業者をお願いをしてですね、今ある校舎を大規模改修して長寿命化を図れるのか、あるいは図る場合には大規模改修の事業費にどれくらいかかるのか、あるいは新築の場合は近隣で最近建てた事例からある程度の事業費が何十億円という大ざっぱな事業費ですがそれは掴めますので、それらと専門業者に見ていただく大規模改修の費用と時間的なものを比べながら、比較しなければいけないと考えています。今回、昨日から始まった皆様から御意見をお聴きする会をスタートにして、教育委員会のこうした考えに対する皆さんの御意見を聴きながら、そして同時に、そういった詳細な調査を進めてまいります。その結果をまた皆様にお伝えをしながら教育委員会の考えを、いろいろな案を皆さんと練っていきたいという考えです。次の⑥に入りますが、9月には各学校、小学校、中学校のPTAの皆さんをお願いをして保護者、父兄の方々との意見交換会を何回か開催しようと考えています。その後、教育委員会としてもいろいろと調査をして、先ほどもお話ししましたようにいろいろなデータが出たら、また、いろいろな考え方が出てきた都度、こうして皆様のところにお邪魔をして、意見交換をしながら、きちっとしたものを作っていきたいと考えています。この⑥の資料には1月に第2回の住民説明会とございますが、第2回の住民皆様との意見交換会がもっと早まって、遅くとも1月にはまた行いたいという考えで

あります。その前にもお邪魔をして意見交換会を行うようになるかもしれません。そういった考えで、今回23日から始まりました住民皆様との意見交換会であります。忌憚のないご意見を出していただければと思います。よろしく申し上げます。添付の資料について説明します。後ろに2枚の資料がありますが、最初は別紙資料の児童生徒数の現状と推計で、この資料につきましては中学校の平成28年、現在の各中学校、各学年別の生徒数と、再編する目標であります33年度の時の推計の生徒数を書いています。そしてその下には、それを30人未満学級でもっていった場合にどのようなになるかを書いています。線を引いた下の表については各中学校の各部活動の部員数を書いています。その裏につきましては、総合計画が4月から新しく作られましたが、そちらの方で行った人口推計から拾って児童生徒数のそれぞれについて小牛田地域、南郷地域の推計をデータ上の推計から引っぱっています。ここの総合計画で行っている人口推計は、これから町の定住化を図り、少子化対策をいろいろな面で図っていった目標人口というものを設定しています。その目標人口に沿った推計でありますので、この目標を達成した場合の人口推計でありまして、こうしたものを使って児童生徒数を推計しています。それから最後には、先ほどお話ししました学校施設の老朽化の現状ということで、小学校6校と中学校3校の建設年と建設してから何年経っているかと、それから敷地面積、延べ床面積、そして右側にCRとあるのはクラスルームで普通教室の数であります。これらの資料をこれからの学校再編を考える上で、資料の一つとして参考にいただければと考えています。以上であります。

《課長補佐（早坂）》

ただ今、御説明申し上げました内容等につきまして質問、御意見等を頂戴したいと思います。何かございませんでしょうか。

《男性》

現在使用している小牛田中学校の校舎は50年も過ぎているようですが、まだ使用しているということはまだ大丈夫だという判断で使っているのか、仕方なく使っているのでしょうか。

《教育長（佐々木）》

現況を申し上げますと、地震が来てすぐ倒れるとか、壊れるとか、そういう状況ではありません。東日本大震災後、すぐに文科省から来ていただいて全部調べていただきました。その時点では、耐震補強もしていますので普通の地震であれば倒壊するとかそのようなことはないという診断を受けています。ただ、何年もつかというそこまでの見解はありませんでした。そのほか、あそこは地下水がすごいです。前、全酪という牛乳の工場がありましてその工場がなくなったと同時に地下水が低い方に、どういうわけかわかりませんが地下にあるボイラー室に水がどんどんたまる状況になっています。それを毎日ポンプでくみ上げて外の側溝に流しています。そうした一つの問題があります。それから建物も地震でゆがんだりしたので直しました。それから窓も鉄格子の状態で、全部ではありませんが一部昔のままの鉄格子で窓が開かない状況とか、トイレ等もだいたい改修はしていますが、かなり子ども

私たちはなんとか頑張っていますが実際的には厳しい状況であります。できるだけ教育委員会としては応急処置等はやっているつもりですが、今後長い目で見た場合にどうなるのか、ということでもあります。

《男性》

小学校も含めて建物を緊急的に何かしなければならないというのはありますか。築41年というのがあります。

《教育長（佐々木）》

不動堂中学校におきましては、地震前からですがプールが使えない状況になっています。現在は南郷のプールを使用しています。校庭については今年度なんとか暗渠的な工事に取り組むことができました。不動堂中学校におきましても校舎等いろいろあるのですが周りの施設面とかそういった面で課題はあります。トイレも換気扇等もつけていますがなかなか臭いも抜けません。トイレなども大幅改修は必要になろうと思います。不動堂小におきましても同じようにトイレの問題とか、やはり出てきております。

《男性》

いきおい30何年に統合して1か所校にというイメージは、どこか既存の場所を想定しながら大改修とか、手を加えてその敷地を利用しながら、という意味合いでの統合を考えているのですか。今の段階での話で結構です。

《教育長（佐々木）》

はっきり言って場所は決まっていません。こうした意見交換会で皆さんからいっぱい意見をいただいて、3校をなんとかやりましょうという方向になれば今度は当然、どこに建てるかということになるかと思えます。財源（の問題）もありますし、そういった方向になった場合、3校いっしょになる方向で考えていますが、場所的にはこの辺になりますがいかがでしょうかとか、いろいろな条件があると思えます。今日は、そこまで、話の材料としてはもちろん準備はしておりません。

《男性》

1校に統合したほうがいいねというのは、人が減るからとか、築年数が多いからどっか別にとか、そういったイメージなのかどうか、その辺ですね。

《教育長（佐々木）》

もちろん、生徒中心に一番に考えたのは、建物もそうですが、3つの学校を1つにしますと学級、お手元の資料をご覧になっていただければわかりますが、28年度で一学年三学級、文科省や私たちは一学年三学級以上、四学級、五学級あることが望ましく考えていますが、理由は後から申し上げますが、三学級あるのが小牛田中学校で二学年、不動堂中学校で一学年、南郷中学校はございません。九つの学年のうち3分の1しか四学級以上になっていない。一学年三学級以上、四学級、五学級になりますと教員の配置が違ってきます。つまり国の方で学級の教員の数、何名という定数が決まっています。中学校の場合は九教科ですが、最低各教科に一人ずつお願いしたいところですが、現在五教科などはなんとか一人は確保でき

ますし、学級の多い学校については複数、技能教科、音楽、美術、保健体育等については必ずしも本務の教員が定数の関係でそこに配置できるというわけではありません。それが、教科の先生が複数になれば先生方同士の相談、研究などが子どもたちへの学習に結びつきます。それから生徒にとっても学級数が増えますと、いわゆる少人数指導とか習熟度別学習とか、学習形態はいろいろありますが、そういった多様な学習形態を導入することができ、それが学力向上に結びつきます。それから人間関係につきましても、特にいじめ関係など心配される保護者の方はおられますが、現在の不登校等の状況を見ますといろいろな理由がありますけれども、友達関係とかあるいは家庭環境とかいろいろあります。それで少人数よりも仲間が多いことによって友達関係もいろいろな方向に求めることができ、少人数よりも多い方が不登校対策に結びつくであろうと。もちろん、教員の人数が増えればですね、美里では30人未満学級を想定していますが子どもたちへのきめ細かな指導、配慮が行き届くようになるであろうと。従いまして、希望を持って、できるだけ不登校等の生徒の解消に結びつけるであろうといった基本的な考えであります。その他にもいっぱいありますが、美里町が誕生してから11年目を迎えています。中学生も1校に集まってですね、美里町の一体感にも結び付くのかなと思っています。いろいろな方法があろうかと思いますがこの再編については、今回はこういったたたき台をお示ししましたが、いろいろな意見を聴いてですね、再度教育委員会で協議をしていろいろな再編パターンがありますので、協議をして進めていきたいという基本的な考えであります。

《教育次長（須田）》

今、御質問された今の学校を使うのかということですが、50年過ぎています。大規模改修をして使うという話もしましたが、あくまでも大規模改修は大規模改修で修繕に過ぎません。よって、それらを含めながら大規模改修にかかる事業費と新築に係る事業費を比較しながら、つぎの材料として考えていきたいと思えます。それで、どこにできるかという場所もここで、あそこの場所、ここの場所と言うと論点があちらこちらと飛んでしまいます。ただし、皆さんのそれぞれの思いの中には、仮に1校になった場合には中央部分が良いだろうとか、そういう思いの部分を含めながら、皆さんの意見を出していただければと思えます。それから午前中の会場でもお話をしてきましたが、やはり南郷地区の場合は生徒の数が減っているという問題があります。小規模になって生徒の少ない学校になってきています。しかし、先ほども申しあげましたように校舎は30年そこそこでまだそんなに古くなっていない。それから体育館も立派ですし、武道場も立派ですし、そして隣に温水プールもありますので施設の面ではしっかりと確保されており、早急に急ぐような問題はないと思えます。ですが、生徒数が減ってきているので、先ほど教育長がお話ししていた標準的な3学級以上の学校に統合した方が良いのか、あるいは、このまま少人数でも維持していった方が良いのか、その辺は教育的な面、また、今までの地域のコミュニティ、これまでの歴史を含めて南郷地域の皆さんの意見を出していただいて、それを尊重しながら決めていきたいという考えですのでよろしくお願ひしたいと思えます。

《男性》

前に練牛小学校が無くなった時にもずいぶん話が出たと聴きましたが、今の子どもたちもそうだと思うのですが、大きくなって地元に戻ってきた時に小学校があるとか、中学校があるから子育てができると思っているからこそ、ここに住まいを構えると思います。それが例えば、この資料から見ると究極の形では南郷地区に学校が無くなりますよね、どこに建てるかは別にして。じゃ、どうするのって、あの子たちはどうするのって、そういう問題では済まなくなってくるのではないかと思います。砂山小とか練牛小とかが統合された時の思いが繰り返される。それから、ここだけではないですよ、宮崎の小中学校もあり、たぶんここよりすくないと思います。それから、涌谷町でも小学校が統合になって閉校になったし中学校も合併したという話があるので、その辺の話を一回こっちに落としてもらって、いいのも悪いのも聴かせていただいて、考える材料としては数字だけでなく。先まで見ていくと何もなくなってしまふのでは、事務局が言うように設備だけあっても箱しか残らなくなってしまふ。それこそ第3セクターで運営して民営化するのかとかそんな話になってしまう。それこそ子どもたちは(大きくなつた後に)行き場がなくなって仙台とか泉とか名取だとか(学校が)あるところにしか行かなくなるのではないか。ここに住もうとする気がなくなるのではないですか。そうになってしまう。まとめることはいいのではないかと思います。私も統合した学校で一学年九クラスというのを体験してきましたので、一緒になることは良いことだと思いますが、この地域だけでなく日本各地を見れば少ない学校がいっぱいあります。予算とかいろいろな問題があつてのことだと思いますが、その格差を少しずつ埋めることができれば理想なのでしょうが、まったくゼロになったらここに何もなくなってしまいます。それこそ人がいなくなる原因にもなってしまふ。そのうち幼稚園のことも出てきますよね、今は2つ、3つとありますが。ゆくゆくはそういう問題も出てくるということですよ、人がいなくなるということは。どこにお金をかけて、何年間で学校を立て直すとか、そういう材料がもう少し欲しいのではないのかと思います。隣の涌谷町で行つた事例があるので、そういうのがこちらに落ちてくれば皆さんも納得したり、それなら仕方ないとか、もう少し考えた方が良くとかになるのではないのでしょうか。実際にPTAでも話が出ているので数字だけもらつても、一番はお金だとは思いますが、その費用対効果を含めていろいろな材料が欲しいと思います。

《教育長(佐々木)》

実際問題としてですね、小学校と幼稚園の関係ですが、南郷はなんごう幼稚園からそのままですね、それから不動堂小学区はふどうどう幼稚園から幼稚園を終了して青生小と不動堂小に別れて、そして六年後に中学校で一緒になる、小牛田小もそういう状況です。ふどうどう幼稚園から幼稚園を終了して小牛田小と北浦小、中塚小に別れて、そして六年後に中学校で一緒になる。よつて、幼小の関係を改善するためには、幼稚園単位で小学校が一つになる必要があるのかなと、ただその前に中学校の方はどうしたら良いのかと、順番的にビジョンでは中学校を先にしたらどうなんですかという町民の意見もいただいております。それら

を総合的に教育委員会で判断してこういったお話を示させていただきました。そのような経緯がございます。

《教育次長（須田）》

ただ今いただいた意見はたいへんに良い意見だったと思います。各地区からご指摘をいただきました。私たちは朝から晩までこういった仕事をしながら満足のいただけない資料で、説得力のある説明もできずに申し訳ありません。これから良い例、悪い例を調べていき、皆様に提供していきます。そして我々がここで抜けていたのは、地域社会、地域づくりというものとの関連性を考えていないことです。これからの地域づくりと関連性を深く考えながら、これから地域、地域をどうするのかということと一緒に考えていきたいと思っています。先ほどから「これから、これから」とばかり言っていますが、さし当り九月にPTA、保護者の皆さんとこのような意見交換会を学校単位で行わせていただきます。夜間になると思いますが、学校の1教室をお借りして保護者の方々にお集まりいただき、意見交換会を行っていく考えです。それから、もう少し地域、地域に小さい単位で下りて、住民の皆さんの意見を聴きながらやっていかなければとそのように思っています。これから、我々もまだまだ勉強をしてですね、良い例、悪い例を集めて皆様にお示しをしながらご意見を聴きしに来ますのでどうぞよろしくをお願いします。

《課長補佐（早坂）》

涌谷町の教育委員会と学校を直接訪問して聴いてきたお話を紹介させていただきます。

涌谷町では約10年かけて統廃合を進めてきました。まずは、第2小学校と第3小学校を統合して月将館小学校というものをつくって、第2小学校の校舎を改修して幼保一帯の施設をつくりました。昨年、涌谷中学校と篁岳中学校を統合して涌谷中学校の校舎がそんなに古くないのでそちらに入りました。篁岳中学校の校舎を改修して、小里小学校と篁岳小学校を統合した白山小学校が入るというような形になっていました。いずれもですね、統合する際にですが1年くらい前から、交流事業ということで両方の学校が集まって同じ授業をしたり、行事をしたりという形をしてきたと、そういう取組をしてきたということで、子どもたちは統合して何らこれまでと違った様子はなかったということをお伺いしております。学校の現場の方では、涌谷中学校と篁岳中学校を統合した際に、両方の学校によってやり方に違いがあって、先生方の間の話では、全部が涌谷中学校方式になってしまったというようなお話も伺ってきております。子どもたちではなく、先生方の運営上の問題ということかと思いますが、そういったお話も伺っております。それから、涌谷中学校と篁岳中学校を統合したことによって通学の便のことがあるということで、篁岳中学校の部分は全部スクールバス対応でした。朝に一斉に5台のバスで登校して、帰りは4時くらいに部活動をしないう生徒たちが帰る、部活動をする生徒たちは6時前後に帰るという2段階のスクールバス方式で行っているというようなお話を聴いております。これはあくまで再編するという上でのお話ではありますが参考までにということをお話をさせていただきました。また、篁岳中学校がなくなる、小里小学校と篁岳小学校もなくなるという時に、どうしても地域の人の人たちの思い

があってですね、籠岳中学校の校歌を是非残したいという思いがあって、籠岳中学校の校歌の歌詞をアレンジして今の白山小学校の校歌にしているそうです。そういった取組をしてこれまでの歴史というものを無くさないような取組もしているということです。聴いてきたことはいっぱいあったのですが、今思いつく部分をお話しさせていただきました。

《教育次長（須田）》

小里地域と籠岳地域と2つあるのですが、籠岳中学校がその中間にあるので、うまくいっているということでした。どちらかに寄ると問題が起きるのでしょうか、たまたま中間にあったのでこの場所でよかったのでしょうか。

《課長補佐（早坂）》

皆様から御意見、御質問何かないでしょうか。

《男性》

再編というのは、数字から見れば、頭ではわかります。しかし、33年以降も同じように推移していけばこのエリアに小学校、中学校、幼稚園はほとんど無くなってしまう状況だと思います、やはり地域づくりというのは、そういう学校とか幼稚園とかそういうものを核として地域が成り立つのが一般的だと思います。多少、小さくともやはりその地域を将来とも活性化させるには若干の負担を無理してでも、我々だけの負担ではなく美里全体の負担になるわけですが、ある程度そのような覚悟をしながらも地域を考えたときに、そういうものを残すという決断もあっては良いのではないかと。この表を見れば、無くなるとすぐに考える、皆さんもそのように考えるでしょう。ただ、イメージで、合併してここ10年そこいらでそうなったら、我々は後輩たちに何をしていたのって罵りを受けるしかないのではないかと、このように感じています。何かこじつけるとすれば、地域の事を考えてということしかありませんが、皆さんもそういうイメージは少なからず持っていると思います。もうちょっと、いろいろな方法を考えていただきたい。

《女性》

予算とか、町のいろいろな事情によってこのような案が出たとは思いますが、学校となると地域の中核施設ですので、地域との密着性というのはすごく強いと思います。私の地区は小島地区です。一番はずれです。東松島市にすぐのところ、すぐ近くに（東松島市の）学校もあります。昔は集落の中に分校がありましたがそれが50年前に廃校となって、南郷小学校に来て一緒になりました。今度は小学校も南郷地区で一つになりました。さらに、次は小牛田と合併して美里町となって学校も一つになる、だんだんと学校が遠くになっていく、それだけがすぐに頭に浮かびました。私たちの地区にお嫁さんが来ないのがわかるような気がします。一番にそのようなことを考えてしまいます。だから、学校がどこにどれくらいの規模の学校があるかを考えて行って欲しいです。美里町で1校にするというのは地形的な問題があり、涌谷とは比較にならないと思います。細長い地形ですから。だからそこを加味していただきたいです。資料で各校の築年数を見ても、バラバラですね。小牛田地域でも中塚小、北浦小は新しいです。この2校は本当に近くではないですか、そういったことも考

えて、南郷地区は少ないかもしれないけれども、なんとか南郷地区には学校が欲しいと思います。感情論で申し訳ありませんが、まずはそこからお願いをしたいと思います。

《課長補佐（早坂）》

はい、ありがとうございます。ほかにございませんか。

《女性》

前回ですね、小中一貫校という話を耳にしたのですが、最近また、閑上とか名取とかで小中一貫校のニュースを見聞きしていますが、その小中一貫校というものは私は知らないのですが、教育委員会ではどういうふうに見ていますか。

《教育長（佐々木）》

今、いろいろと説明をしてご意見をいただいておりますが、当然、小中一貫校というスタイルも大きな選択肢になるかと思えます。ですから、いろいろな要望を聴いてですね、確かに地域から学校がなくなることはじゅうじゅう私たち、できるならば現在のまま存続させて、しかし5年、10年経っても何もしないのかと、むしろ子どものためにどうあるべきなのか、保護者の方々と地域の方々と議論をしていただきたいと逆に思っています。ですから、こういうことは今日決めたから、すぐ明日に着工というわけには行かないと思えます。やはり、将来の子どもたちを見据えると地域性も当然に関係してきます。ですから、中学校が一つになる、あるいは小中一貫校、小中一貫校になれば小学1年生から9年生、そのようなスタイルでやっています。小学校年生まで低学年グループ、小学5年、6年、中1が中学年グループ、中2、中3が高学年グループ、そのようなパターンが多いようですが、それは独自に決めてかまいません。県から許可をもらえば良いことです。そうなってくると小学校の5、6年が中1になりますと教科担任制になります。小学校の5年生の算数の先生、理科の先生、英語も今度教科化されるようですが、そうした教員の配置の問題があります。部活の問題は別にしてですが、それは一つのハードル、指導者のいろいろなハードルをクリアできれば可能です。現にこの辺では、色麻でやっています。色麻小中一貫校をつくる前に、小学校を一つにしたということです。中学校は前から一つでしたから、それで小中一貫校にしました。それから金成ですが、栗原市の金成地域にも私ら教育委員会で研修に行ってきましたけれども、5つか6つあった小学校をまず1つにして、中学校1つですからそれで小中一貫校にしました。ですから、小学校を一つに、南郷は一つですから比較的その辺は問題ないのですが。宮城県では、色麻、金成、豊里とありますがそういうものもどんどん出てくるのではないのでしょうか。大崎市でも小学校の再編を考えているようですが、ですから、再編の選択肢の中には小中一貫校というのは当然にあります。ただ、3つの中学校がありますから、それぞれ、課題はあります。

《教育次長（須田）》

今日の午前中の会場でも同じような話がありました。いずれ中学校は20年経ったら古くなるので小牛田と合流するので、その時に合流できるように向こうでも作ってくださいと、そういう意見も出ました。それから小牛田地域で統合したらその分校として南郷中学校

を残すということ、分校になれば先生が行ったり来たりできるので、例えば音楽の先生が南郷中学校にいないれば本校から来て教えるとか、そのような案もありますね。部活動についてはなかなか良い解決策はないのですが、地域社会の中の地域スポーツとして、いわゆるスポーツ少年団化していくというような意見も出ています。個人競技に関しては存続して欲しいという意見も出されましたが個人競技だけではないので様々な問題があると思います。

《教育長（佐々木）》

中学校の分校という話が午前中に出たのですが、現時点で資料が何もないので、高校の場合には事例があるのですが、中学校の場合にはどのように運営していくのかがわかりません。

《女性》

分校にするにしても人数が少ないですか、南郷の場合では。

《教育長（佐々木）》

いや、100人以上もいますから。分校でなくとの十分なくらいいますから。

《男性》

最初の意見交換会で話があったように、敷地を別というか、柵があるから別なだけかはわかりませんが、建物自体が分離型の小中一貫校もとても良いと思いました。先生たちの話を聴くと今はあまり交流がないということなので、そういうふうになればお互いのデータも人も動いたりもできるし、あれはこの地域には合っているのではないかと思います。

《教育長（佐々木）》

施設一体型と分離型とがあります。

《男性》

コストの面から考えたらそういうのもあるのかと思います。

《教育長（佐々木）》

お金のことも大事なのですが、子どもたちのためにどうしたよいかということが大きいです。

《女性》

南郷の皆さんは、年配の方々を含めて、ここから学校を無くして欲しくないという思いが強いと思いますよ。

《教育次長（須田）》

私も同感です。

《女性》

そうですね。

《男性》

ここ（元々南郷小学区の地域）の人は、まだ学校が移ったことがないのでいいが、砂山学区と練牛学区の人たちは気の毒だと思う。

《女性》

そうですね。

《男性》

練牛小が廃校になってから何年になりますか。

《教育長（佐々木）》

確か、平成20年だったと思いますが。

《男性》

3階の古い校舎は東日本大震災で崩壊したかもしれない、あの時間帯だから多くの死者が出たかもしれない。そういう面では、今となつては、練牛小は合併してよかったと思う。私の孫が中学校ではソフトボール部に入っていたが、2年生になった時に部員が少なくなつて廃部になった。すごくがっかりしていた。やりたいスポーツ、スポーツだけでなくやりたい部活動に入れたいというのも問題だと思う。どっちが良いかわからない。

《課長補佐（早坂）》

小中一貫校の話が出ましたが、その他に御意見、御質問はありませんか。

《男性》

学校再編と関係のないことでも良いですか。全国的に出ているいじめの問題について良いですか。

《教育次長（須田）》

はい、どうぞ。

《男性》

美里町の子どもたち、南郷を含めて、どのようないじめの問題はどのような状況でしょうか。

《教育長（佐々木）》

いじめ問題等については、毎月、教育委員会では各学校にお願いして調べていただいています。いじめられたと思う人、それを見たという件数を調査しております。それで何もないというのはむしろ心配でありまして件数的には13件とか20件とか、情報を入手したらすぐに調べて事実関係を確認してそして解消するというところで取り組んでいます。無視されたのもいじめ、冷やかされたのもいじめです。本人がいやだと思ふものは全部いじめになりますので、現状では重大事態となるいじめはありません。毎月、教育相談員から教育委員会定例会で報告をさせ、私たちもいろいろ質問をしていますが、重大なものはありません。ほとんどのものは解決しています、ただ、時間を要するものもあります。不登校につきましては確かに30日以上欠席、3か月で累計して30日以上欠席した中学生が13人、小学校は2、3人でした。理由は様々です。友達関係、学習、それから家庭環境、学校と家庭との連絡が切れないように毎月カウンセラーの方をお願いをし、とにかく子どもの状況を確認しながら、確認できない場合もありますので、そういった場合は児童相談所や警察等の関係機関と連携を取りながら行っています。そのような状況であります。なお、美里町の教育委員会に今年から、青少年教育相談員を専属に配置していただき、学校、保護者、生徒と直接に相談したりしています。今、はなみずき教室という不登校の子どもたちを対象に毎週木曜日に南郷の改善センターでそういった教室を開いて、不登校の児童生徒が数人、定期的に来て

います。いくらかでも解消に向けた取り組みを行っています。

《課長補佐（早坂）》

ほかに何かありませんか。皆様の方から内容であれば、これを持ちまして閉じさせていただいてよろしいでしょうか。最後に、佐々木教育長から閉会の挨拶を申し上げます。

《教育長（佐々木）》

ほんとうに、貴重な土曜日の午後、それにこの暑い中、学校再編の説明会にお集まりいただき、そしていろいろと率直な御意見をいただきました。ありがとうございます。今晚は、練牛地区で最終回を予定しております。それが終わりましたら、いただいたご意見をせ整理して皆様方に報告といたしますか、ホームページ等々でお知らせをし、さらに保護者との説明会等々を重ねながら美里町の学校がどうあるべきか、子どもたちを中心にした考え方で進めていきたいと考えております。今後ともよろしく申し上げます。今日は大変ありがとうございます。